

中国語の動詞「挡(dǎng)」「拦(lán)」について

黄麗華

1. はじめに

中国語の動詞「挡」「拦」は、いずれもほぼ日本語の「さえぎる」「はばむ」に相当する意味の動詞である。また、両語を組み合わせた「拦挡」(さえぎって通さない、立ちどかる、邪魔する、通せんぼうをする)という複合語もある¹。本稿では、この「挡」「拦」の意味について考察する。

なお、例文の日本語訳は特に断らない限り、筆者によるものである。

2. 辞書の記述

「挡」「拦」の意味について、中国社会科学院語言研究所編1979『現代漢語詞典』(以下『漢語』と略す)、香坂順一編1982『現代中国語辞典』(以下『中国語』と略す)では、それぞれ次のように記述している(下線筆者)。

挡： ① 拦住(遮り止める)

抵挡(防ぎとめる、支え止める、抵抗する)(日本語訳は『中国語』「拦住」「抵挡」の項による)

② 遮蔽(覆い隠す)(日本語訳は『中国語』の「遮蔽」の項による)

拦： 不讓通過(通さない)

阻拦(妨害する、阻む、さえぎる)(日本語訳は『中国語』の「阻拦」の項による)

——『漢語』

挡： 阻む、さえぎる、防ぐ、覆う

拦： さえぎる、阻む

——『中国語』

『漢語』では、「拦」の意味記述に「挡住」「阻挡」、「挡」の意味記述に「阻挡」が用いられている。また、『中国語』では、「拦」「挡」のいずれに対しても、「さえぎる、はばむ」という日本語訳があげられている。しかし、「拦」「挡」には、これらの記述だけでは分からない重要な特徴がある。以下、文型と用例にもとづき、「拦」「挡」の意味を考える。

3. 分 析

3.1. 文型と対象

「挡」「拦」の基本文型を以下に示す。(NP1 は主体、NP2 は対象)

(1) NP1 挡／拦 NP2

(2) 張三 挡 李四 (張三は李四をさえぎりとめる)

(3) 張三 挡 李四 (張三は李四をさえぎりとめる)

「挡」「拦」の対象 (NP2) は、次の三つの種類に分類することができる。

- ① 一定の動きを持つ (と想定される) もの (以下〈移動物〉とする)
- ② 「窓」「道」などの「場所」、または「通路」を表すもの (以下〈空間〉とする)
- ③ さえぎるために用いられるもの (以下〈道具〉とする)

(4)(5)(6)は「対象＝〈移動物〉」、(7)(8)は「対象＝〈空間〉」、(9)(10)は「対象＝〈道具〉」の例である (下線部が「対象」)。

- (4) 挡風。(風をさえぎりとめる)〈移動物〉
- (5) 挡／拦 洪水。(洪水をとめる)〈移動物〉
- (6) 挡／拦 人。(人をさえぎりとめる)〈移動物〉
- (7) 挡 窗戸。(窗戸をふさぐ)〈空間〉
- (8) 挡／拦 路。(道をふさぐ)〈空間〉
- (9) 挡 一块板。(板をおいて、さえぎる)〈道具〉
- (10) 拦 一条繩子。(繩を張って、さえぎる)〈道具〉

以下、①②③それぞれの場合について、構文的特徴をふまえて、「挡」「拦」の意味を考えることにする。

3.2. 「把字句」における「挡」「拦」²

「把字句」において、動詞がどのような成分と結びつくかは、動詞の意味を考える場合の重要な手がかりである。

3.2.1. 対象が〈移動物〉の場合

まず、対象が〈移動物〉である場合について考える。その場合、「挡」は「定着」を表す補語「住」、または対象の存在場所を表す「在」と結びつくが、「移動」を表す補語「進」「到」とは結びつかない (NP3 は場所、下線部は「補語」を示す)。

- (1) NP1 把 NP2 挡住

(12) NP1 把 NP2 挡在 NP3

(13)[×] NP1 把 NP2 挡進／挡到 NP3

(14) 張三 把李四 挡住了。(張三はや李四をさえぎりとめた)

(15) 張三 把李四 挡在門外。(張三はや通せんぼうをして李四を部屋に入れない)

(16)[×] 張三 把羊 挡到／挡進羊圈里了。(cf.(22))

一方、「拦」は「住」「在」と結びつくほか、「到」「進」のような「到達」「移動」を表す補語とも結びつく。

(17) NP1 把 NP2 拦住

(18) NP1 把 NP2 拦在 NP3

(19)[×] NP1 把 NP2 拦進／拦到 NP3

(20) 張三 把李四 拦住了。(張三はや李四をさえぎりとめた)

(21) 張三 把羊 拦在羊圈里了。(張三はや羊を羊小屋に閉じ込めた)

(22) 張三 把羊 拦到／拦進羊圈里了。(張三はや羊を羊小屋に追い込んだ)

つまり、「挡」は「定着」「存在」を表す成分とは結びつくが、「到達」「移動」を表す成分とは結びつかない。一方、「拦」は「定着」「存在」及び「到達」「移動」を表す成分のいずれとも結びつくということである。

このような「挡」「拦」と結びつく補語成分の違いから、次のようなことが推測される。

「挡」は「モノを固定・定着させる」ことを表す。つまり、「挡」は「〈移動物〉の動きを一定のところで〈とめる〉」ことを表す動詞である。

「拦」は「〈移動物〉を一定の範囲内に固定・定着させる」ことを表すほか、「〈移動物〉を移動させて、一定の範囲内に固定させる」ことをも表す。この二つの意味は「〈移動物〉を一定の範囲を越えさせない」ことを表すとまとめられよう。

3.2.2. 対象が〈空間〉と〈道具〉の場合

対象が〈空間〉の場合、「挡」「拦」と結びつく成分は同じである。

(23) NP1 把 NP2 挡住／挡上／挡起来了

(24) NP1 把 NP2 拦住／拦上／拦起来了

(25)[×] NP1 把 NP2 挡在／拦在

(26) 張三 把門 挡住／挡上了。(張三はやドアをふさいだ)

(27) 張三 把菜地 拦上／拦起来了。(張三はや野菜畑を囲んだ)

対象が〈空間〉である場合、「挡」「拦」は、ともに補語として「住」(定着)、「上」

「起来」(状況の出現)をとる。ただし、場所を表す「在」とは結びつかない。この点で、対象が〈移動物〉である場合と異なる。

対象が〈道具〉の場合も、「挡」「拦」と結びつく成分は同じである。ただし、この場合、「住」とは結びつかない。この点で、〈移動物〉〈空間〉の場合と異なる。

(28) NP1 把 NP2 挡在/拦在 NP3

(29) 张三 把一把椅子 挡在門口。(张三は椅子をドアのところにおいて、ドアをふさぐ)

(30) 张三 把一条繩子 拦在路口。(张三は繩をはって、道をふさぐ)

(31)× 张三 把一把椅子 挡住門口。(cf.(29))

(32)× 张三 把一条繩子 拦住門口。(cf.(30))

ただし、対象が〈道具〉である場合、「把字句」よりも、(33)のような文型の方がよく用いられる(NP3は対象の存在場所を示す)。

(33) NP1 在 NP3 挡/拦了 NP2

(34) 张三 在門口 挡了 一把椅子。(ドアをふさぐためにドアに椅子を置いた)

(35) 张三 在路口 拦了 一条繩子。(张三は道をふさぐために繩を張った)

この場合、「挡」「拦」は「NP3に障害物を設ける」くらいの意味だと考えられる。つまり、「挡」「拦」は「設置」の意味をもっているということである。このことは、「挡」「拦」が(36)のような“着”存在文をとることからも確認される³。

(36) NP3 挡着/拦着 NP2 (NP3は場所、NP2は存在物)

(37) 門口 挡着 一把椅子。(人が出入りできないように入口に椅子が置いてある)

(38) 門口 拦着 一条繩子。(人が出入りできないように入口に繩が張ってある)

なぜならば、他動詞が“着”をとって「存在文」をつくるのは「放 fàng/擺 bǎi」(置く)、「挂 guà」(掛ける)などの「設置」の意を表す動詞に限られるからである。

3.3. 〈移動物〉の性質

3.3.1. 〈移動物〉が一定の範囲内にとどまるか否か?

3.1.と3.2.の考察をふまえて、「挡」「拦」のとり〈移動物〉の性質について考察する(下線部が〈移動物〉)。

(39) 挡風。(風をさえぎる)

(40)[×] 拦風。

(41) 挡住敵人的炮火。(敵の砲火をさえぎる)

(42)[×] 拦住敵人的炮火。

(43) 挡洪水。(洪水をとめる)

(44) 拦洪水。(洪水をとめる)

「風」「炮火」「洪水」はいずれも〈移動物〉である。しかし、「風」「炮火」は「障害物にぶつかって、動きがとまる」ことはあっても、「一定の範囲内にとどまる」とは想定できない。それに対し、「洪水」は「ダム、堤防などのような境界をつくることによって、一定の範囲内にとどまる」ものである。この点では、「風」「炮火」とは異なる。

つまり、「拦」は「一定の範囲内にとどめることができる」と想定される〈移動物〉のみを対象にとるが、「挡」にはそのような制限はないのである。

(45) 挡住光線了。(明りをさえぎった)

(46)[×] 拦住光線了。

(47) 挡寒氣。(寒さをふせぐ)

(48)[×] 拦寒氣。

(49) 挡雨。(雨をさえぎりをとめる)

(50)[×] 拦雨。

(46)(48)(50)が不適格なもの、(40)(42)と同様、「光線」「寒氣」「雨」は「一定の範囲内にとどめる」ことができないからである。

〈移動物〉におけるこのような違いは「把 NP2 拦在 NP3」の文型では、より明確に反映される。

(51)[×] 把風拦在院子里。(cf.×風を庭にとどめる)

(52)[×] 把炮火拦在炮楼里。(cf.×砲火を砲塔にとどめる)

(53) 把水拦在水庫里。(水を貯水池にとどめる)

(54) 把羊拦在羊圈里。(羊を羊小屋に閉じ込める)

(53)は「水が外に出ないように貯水池にとどめる」ことを表し、(54)は「羊が外に出られないように羊小屋に閉じ込める」ことを表す。このように、「境界を作って、〈移動物〉をその範囲にとどめて、そこから出させない」ことが、「拦」にとって重要な要素なのである。

一方、3.2.1.で述べたように、「挡」は単に「〈移動物〉の動きをとめる」ことに焦点がおかれると考えられる。よって、〈移動物〉も「障害物にぶつかって、その勢い

をなくす」ようなものであればよい。そのため、「風」「炮火」「洪水」「光線」「寒気」「雨」のようなものでも対象としてとることができるのである。

(55) 別挡我。(私をさえぎるな／私のことを邪魔するな)

(56) 別拦我。(私をさえぎるな／私のことを邪魔するな)

(55)は、「私が行こうとするのを邪魔するな／とめるな」という意味にもとれるし、「私の視線をさえぎるな」という意味にもとれる。それに対し、(56)は前者の意味しか表さない。これも、「人間」は一定の範囲内に〈とどまる〉ことはあるが、「視線」は「光線」と同じく、一定の範囲内に〈とどまる〉ことがないからである。

ちなみに、「挡」は「覆い隠す」ことを表すこともある(2.参照)。これも、「モノの姿が人の目に入らないように障害物をおいて、視線をさえぎる」ということである。

3.3.2. 〈移動物〉の方向性

「挡」「拦」は〈移動物〉の動きの方向に関しても違いがある。「拦」は「地面に沿って動く〈移動物〉」しか対象にとらないが、「挡」にはこのような制限はない。

(57) 挡住他、不讓他出来。(彼が外に出られないようにさえぎりとめる)

(58) 拦住他、不讓他出来。(cf.(57))

(59) 挡住他、不讓他从井里出来。(彼が井戸から出られないようにさえぎりとめる)

(60)[×] 拦住他、不讓他从井里出来。(cf.(59))

(60)が不適格なのは、「井戸から出ようとする」〈移動物〉は、「地面に沿って動く〈移動物〉」ではないからである。つまり、「拦」は水平的な動きをもつものしか対象としないのである。

3.4. 〈空間〉と〈道具〉

3.4.1. 「通路」と「境界」

対象が〈空間〉の場合、「拦」は「操場」「運動場」「果園」「果樹園」のようなもの、「門」「去路」のようなもののいずれをも対象にとることができる。しかし、「挡」は、「門」「去路」(行く手)のようなものしか対象にとらない(下線部が〈空間〉)。

(61)[×] 把操場挡起来了。

(62) 把操場拦起来了。(運動場を何かで囲んだ)

(63)[×] 把果園挡起来了。

(64) 把果園拦起来了。(果樹園を何かで囲んだ)

(61)~(64)において、「拦」が適格で「挡」が不適格なのは、「操場」(運動場)、「果園」(果樹園)は「囲んで、境界を示す」ことはできても、それ全体に障害物を設けて、〈移動物〉の動きを一定のところとめることが通常考えられないからである。

(65) 把操場旁边的門挡上了。(運動場の横の入口をふさいだ)

(66) 把果園的后門起来了。(果樹園の裏の入口をふさいだ)

(67) 一座大山挡住了去路。(大きな山が行く手をさえぎっている)

(65)(66)(67)において、「挡」が適格なのは、「操場旁边的門」「果園的后門」「去路」に障害物を設けて、〈移動物〉の動きをそのところとめることができるからである。このように、「挡」のとり〈空間〉は「門」「道」のような「通路」としてとらえるものに限られるのである。

(68) 把羊圈挡上了。(羊小屋の出口をふさいだ)

(69) 把羊圈拦上了。(羊小屋のまわりを何かで囲んだ)

(70) 把鷄窩挡上了。(鷄小屋の出口をふさいだ)

(71) 把鷄窩拦上了。(鷄小屋のまわりを何かで囲んだ)

(68)~(71)では、「挡」「拦」のいずれも用いられるが、それぞれの意味は異なる。「挡」を用いた(68)(70)は、「羊小屋／鷄小屋の出口をふさぐ」ことであり、「拦」を用いた(69)(71)は、「羊小屋／鷄小屋のまわりを囲んで、境界を示す」ことである。

「把 NP2 挡在／拦在 NP3」の文型をとる場合についても同じことがいえる。

(72)[×] 把張三挡在屋里、不讓出来。(cf.(73))

(73) 把張三拦在屋里、不讓出来。(張三を部屋に閉じ込めて、外へ出させない)

(72)で、「挡」が使えないのは、「屋里」(部屋の中)は、〈移動物〉を閉じ込める〈空間〉ではあっても、「通路」ではないからである。一方、「拦」は「境界を示して、〈移動物〉を一定の〈空間〉に閉じ込める」意味を表すため、「在屋里」と共起できるのである。

しかし、「門口」のような「通路」を表す場合は「挡」も適格である。

(74) 把張三挡在門口、不讓出来。(通せんぼうをして、張三を外へ出させない)

ちなみに、(75)のように「挡」は「門外」という言葉とも共起する。

(75) 把張三挡在門外、不讓進來。(通せんぼうをして、張三を部屋へ入れない)

「門外」自体は「通路」ではなく、「門の外」(屋外)という領域を表すものである。ただし、「門」という「通路」で屋外とつながっており、容易に「門」という「通路」が想起されるであろう⁴。

(74)(75)は「入口をふさいで、張三が出入りするのを邪魔する」ことを表す。

以上のことから、「挡」は「通路をふさいで、〈移動物〉の動きをとめる」ことを表し、「拦」は「境界を示して、〈移動物〉を一定の範囲内にとどめて、そこを越えさせない」ことを表すといえるであろう。

3.3.で見た通り、「挡」は基本的に「〈移動物〉の動きをとめる」ことを表す。ただ、その場合、「〈移動物〉を通路として捉えることのできる〈空間〉をふさぐ」ことによって、「〈移動物〉の動きをとめる」のでなければならない。

一方、「拦」は「境界を示して、〈移動物〉を一定の範囲内にとどめて、そこから出させない」ことを表す。そして、「拦」のとり〈空間〉は、「何かで囲める〈空間〉」である。

3.4.2. 〈道具〉及び〈手段〉

3.4.1.で見たように、「挡」「拦」のいずれも、対象として「門」「窗戸」「路」のような「通路」をとることができるが、それぞれの動詞が表す状況は異なる。

(6) 把門挡上了。(ドアを何かでふさいだ)

(7) 把門拦上了。(ドアを何かで囲んだ)

(8) 把窗戸挡上了。(窗戸を何かでふさいだ)

(9) 把窗戸拦上了。(窗戸を何かで囲んだ)

「挡」を用いた(6)(8)は、「〈移動物〉の動きを、物理的に接触してとめるように、「門」「窗戸」に障害物を設けた」ことを表す。それに対し、「拦」は「「門」「窗戸」の所を囲むように障害物をおいて、〈移動物〉が入れないように境界を示した」ことを表す。

普通、「物理的に〈移動物〉の動きをとめる」場合、〈移動物〉の通路に設ける障害物は一定の大きさをもつものでなければならない(下線部は〈道具〉〈手段〉を示す)。

(80) 用木板把門挡住。(板でドアをふさぐ)

(81)[×] 用鉄鏈子把門挡住。(cf.×鉄製のチェーンでドアをふさぐ)

(81)が不適格なのは、「物理的に接触して、〈移動物〉の動きをとめる」のには、チェーンの持つ面積が小さすぎるからである。(82)が不適格なものも、「竹簾で風をさえぎる」ことができないからである。

(82)[×] 在門上挂个竹簾挡風。(cf.×ドアに竹の簾を掛けて、風をさえぎる)

(81)を(83)のように「拦」にかえれば適格になる。なぜならば、「拦」は特に〈移動物〉を物理的に接触してとめるものでなくても、「〈移動物〉に対して、その境界を越えないようにする」ことのできるものであればよい。

(83) 用鉄鏈子把門拦住。(鉄製のチェーンでドアをふさぐ)

「挡」「拦」のこのような違いは、(84)(85)では、より明確に表れる。

(84)[×] 張三在離車十米处一招手挡了一輛車。(cf・(85))

(85) 張三在離車十米处一招手拦了一輛車。

(張三は車から十メートル離れたところで手を振って車をとめた)

(84)(85)で、「拦」が適格で「挡」が適格でないのは、「十メートル離れたところで手を振る」という行為は、車に対して警告することになり、「そこにとまって、こちらに来ないように」することはできても、「車を物理的に接触してとめる」ことはできないからである。

3.5. 動作主体の意志性

最後に主体の性質について述べる。

「拦」は人間の意志的な行為でなければならないが、「挡」にはそのような制限はない。

(86) 張三故意站在門口挡李四。(張三はわざと入口にたって、李四をさえぎりとする)

(87) 張三故意站在門口拦李四。(cf.(86))

(88) 張三不小心挡住了李四。(張三はうっかりして、李四をさえぎった)

(89)[×] 張三不小心拦住了李四。

(89)が不適格なのは、「不小心」(うっかりして)という非意志的な行為であることを表す成分があるからである。

また、(90)のような無生物を主体とする文には(擬人法を除き)「拦」は用いられない。

(90)^{??} 一座大山拦住了去路。

4. まとめ

以上の分析から、「挡」「拦」の意味を次のようにまとめることができる。

挡：〈移動物〉の動きを物理的に接触してとめること。

拦：〈移動物〉がその境界を越えないよう、何等かの方法で境界線を示すこと。

(注)

1：中国語には、意味の近い動詞を組み合わせた複合動詞が多くあり、「拦挡」もその一例である。しかし、その逆の「[×]挡拦」はない。このことは複合動詞の問題として興味深いことである。

- 2：「把字句」は「処置句」とも呼ばれ、「把」の後に置かれる対象を処置したり、影響を与えることを表す。
- 3：「設置」を表す動詞に“着”をつけて、「存在」を表す文のこと（矢野・藍1979参照）。
- 例：書架上擺着許多書。（本棚に本がたくさん置いてある）
 牆上挂着一幅画。（壁に掛軸が掛けてある）
 院子里種着很多花。（庭に花がたくさん植えてある）
- 4：都立大学助手大島資生氏のアドバイスによる。

／参考文献／

- 中国社会科学院語言研究所1979 『現代漢語詞典』商務印書館
 愛知大学編1987 『中日大辞典増訂第二版』大修館書店
 香坂順一他編1982 『現代中国語辞典』光生館
 孟 琮他編1987 『動詞用法詞典』上海辞書出版社
 王硯農他編1984 『漢語常用動詞搭配詞典』外語教学与研究出版社
 矢野光治・藍清漢1979 「漢語の存在文について」『中国語学』226 pp.83－86
 中国語学研究会

言語経歴 1957年12月 中国浙江省蒼南県生まれ
 0歳～3歳 蒼南県
 3歳～20歳 中国山西省太谷県
 20歳～25歳 中国陝西省西安市
 25歳～26歳 中国北京市
 26歳～27歳 西安市
 27歳～28歳 日本群馬県藤岡市
 28歳～31歳 日本東京都（港区・文京区）

（Huāng Lihua・東京都立大学大学院学生）